

御所南だより 3月特別号 特集 学校評価

令和5年3月24日
京都市立御所南小学校
校長 鈴木 登美代

御所南小学校では、学校評価の大切な指標として、保護者・児童・教職員アンケートを実施しています。今回は一年間のまとめとして、2月末に実施しましたアンケート結果をお知らせします。母数は児童997、保護者868、教職員43、保護者回答率は、87%でした。

学校教育目評 未来に夢が広がる地域の学校

確かな学力・豊かな人間性・健やかな体 かがやく御所南の子ども
～感じる つながる 自分から 未来を切り拓く子どもの育成～

児童 A=そう思う B=大体そう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない

保護者 教職員 A=出来ている B=大体出来ている C=あまり出来ていない D=出来ていない E=わからない

	評価内容（児童）	回答（%）				評価内容（教職員）	回答（%）				
		A	B	C	D		A	B	C	D	
1	学習のめあてが分かり、学習課題を立てて自ら学習を進めることができますか	49.7	44.0	5.5	0.8	1	学習のめあてを明確にし、子どもたちが自ら学習に取り組めるように指導している	46.5	53.5	0.0	0.0
2	司会をして学習をすすめることができますか	43.9	32.9	17.5	5.7	2	子どもが司会をして学習をすすめることができるように指導し、机間巡回や個に応じた支援などきめ細やかな対応をしている	18.6	55.8	20.9	4.7
3	相手の意見を聞き、質問したり意見を述べたりすることができますか	47.4	38.0	12.4	2.2	3	相手の考え方や意見を聞き、質問したり意見を述べたりしてお互いに認め合いながら話し合うことができるよう指導している	46.5	48.8	4.7	0.0
4	目的に合わせて、自分の思いや考えを書きまとめることができますか	59.8	32.1	7.5	0.6	4	学習課程を大切にして、論理的思考力を高めるような授業をすすめている	25.6	67.4	7.0	0.0
5	あきらめず最後まで（分かるまで できるまで）取り組むことができていますか	57.7	36.0	5.2	1.1	5	子どもたちが分からることをねばり強く解決するような指導や支援を行っている	30.2	62.8	7.0	0.0
6	先生は、提出したノートなどに〇をしたりするなどていねいに見てくれますか。	72.9	21.0	4.7	1.4	6	子どもたちのよさや努力を認めるとともに、個に応じた適切な指導や支援を行っている	27.9	69.8	2.3	0.0
7	生活科（1・2年）・総合コミュニティ（かがやき）（3～6年）の学習は今後の生活（生き方など）に役立つと思いますか。	65.7	26.1	5.7	2.5	7	生活科や総合コミュニティ（かがやき）の学習で、本物に出会う経験を生かし、子どもが意欲的に学習できるよう指導の工夫を行っている	37.3	58.1	2.3	2.3
8	学校は好きですか	59.8	29.0	8.2	3.0	8	子どもたちが楽しく学校に来ることができますように工夫している	34.9	62.8	2.3	0.0
9	自分からすすんでいきたいと思いますか	47.5	38.1	12.2	2.2	9	学校や地域でいきたいと思いますように指導するとともに、自分からすすんでいきたいと思います	46.5	51.2	2.3	0.0
10	友だちを大切にしていますか	75.3	22.1	2.0	0.6	10	きずな週間の取組などを通して、子どもたちが友だちを大切にする心や態度を育んでいる	39.5	48.9	11.6	0.0
11	学校やクラスのきまりや約束を守っていますか	44.3	49.9	4.7	1.1	11	学校やクラスのきまりや約束を守るよう指導している	55.8	44.2	0.0	0.0
12	自分にはよいところがあると思いますか	52.7	31.0	10.4	5.9	12	自己肯定感をもつなど、自尊感情を育てる指導を行っている	41.9	55.8	2.3	0.0
13	先生は、あなたのことをよく分かっていると思いますか	59.5	31.0	6.5	3.0	13	子どもの様子をよくみたり、話しかけたりして子どもを理解する努力をしている	41.9	55.8	2.3	0.0
14	自分は、家族や先生、友だちに大切にされていると思いますか	68.1	28.0	2.6	1.3	14	子どものことについて連絡を密にするなど、保護者と連携して指導するようにしている	23.2	69.8	4.7	2.3
15	読書は好きですか	63.1	21.1	10.3	5.5	15	子どもたちが読書に興味・関心をもち、読書力が身に付くよう指導の工夫を行っている	30.2	46.5	16.3	7.0
16	交通ルールを守っていますか	61.9	35.1	1.7	13.0	16	交通のきまりを守るよう指導している	53.5	44.2	2.3	0.0
	評価内容（保護者）	回答（%）									
		A	B	C	D		A	B	C	D	
1	子どもがめあてをもち、自ら学習を進めることができます。	27.1	56.1	15.2	1.6		本年度も、感染拡大防止に努めながら教育活動を行ってきました。徐々に制限が緩和されてきたものの、まだまだ本格実施とはいえないことが多い一年でした。そのような中でも、子どもたちが健やかに成長し、無事に本年度を終えることができましたのも、保護者の方、そして地域の方が本校の教育にご理解、ご協力いただき支えていただいたお陰であると感謝しております。				
2	教師が子ども同士の話し合いの仕方の指導や個に応じた支援などをきめ細やかに行うことができます。	33.3	56.6	9.0	1.1		今回の評価アンケートも、児童と教職員はGIGA端末を使って、保護者の方には事前にQRコードとURLをお知らせし家庭の端末を使って回答していただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。				
3	子どもたちが進んで発表したり、友だちは話をよく聞いたりしてお互いに認め合いながら学習することができます。	36.6	59.1	3.5	0.8		では、結果を見ていきます。児童と教員は、前期、後期ともほぼ横ばいで大きな変化がありませんでした。ほほどの項目も肯定的な評価が高く、16項目中10項目が90%を超す結果でした。その中で②の「司会をして学習ができる」の項目が児童・教員共に約75%と他に比べて低い値を示しています。話し合い活動は、積極的に取り入れていますが、全体で司会を立てて話し合いを進めることに不慣れであることがこの結果の一因として考えられます。子どもたちの司会力や話し合うスキルを身に付けるということは、自分たちで話し合いを進め、思考を深めたり考えを練り上げたりして結論を導き出す力をつけるために必要なことだと考えます。また、教師が子どもたちの考えを上手に引き出し、思考を深めることができるように問掛けをタイミングよくしていくことや、子どもたちのやり取りを聞きながら必要に応じて支援していくことができるよう力を付けてくとも必要です。児童も教員も自信をもって目指す授業を実現できるように今後も力を入れて取り組んでいきます。				
4	子どもが論理的に考え、それを表現する力をつけることができます。	21.5	59.8	16.9	1.8		大きく結果が変わったのが、保護者の評価結果です。全項目において前期に比べ肯定的な評価が上昇しました。特に前期値の低かった、4項目（①④⑤⑪）のうち、3項目において、大きく上昇が見られました。（それぞれ①13.4↑④13.8↑⑤8.9%↑）				
5	子どもが分からることを粘り強く解決することができます。	19.7	55.2	22.2	2.9		④「論理的に考え、それを表現する力をつけること」、児童の結果は91.9%、教員の結果は93%でどちらも高い値が出ています。この項目の保護者評価は前期と比較すると13.8%上昇しました。この「論理的に考え、それを表現する力をつけること」は、本校が根幹に据えている子どもたちにつけたい資質能力の一つであり、その育成を目指して授業研究を行い、取組を進めてきました。そのことについて保護者の方から高評価をいただいたことは、今年度教職員が取り組んできたことへの評価として、大変うれしいことで、自信にもつながります。これを励みにしてより一層頑張っていきたいと思います。				
6	教師が子どものよさや努力を認めることができます。	46.2	46.0	5.6	2.2		また、⑪の「子どもの読書すること」についての項目についての取組として、前期のアンケート後、今年度初めて親子読書を実施しました。				
7	本物に出会う経験を通して、子どもが意欲的に学習できるよう指導の工夫を行っています。	31.5	56.8	10.3	1.4		学年で本を選定し、各家庭に持ち帰って親子で一緒に本を読み感想を伝え合うという初めての取組でした。保護者の方々にも積極的にご協力いただいたよう、「また、やってみたい。」というお声をたくさんいただきました。また、図書館コミュニケーションの上岡さんによるお話を会も、今年度も、各学年3回ずつ実施していました。目を輝かせてお話を世界にどっぷり浸って物語を楽しんでいる子どもたちの様子を見ていますと、本への興味・関心が高いために感じます。コロナ禍の中、中止していた本の貸し出しを3学期より再開しました。子どもたちに豊かな想像力を育むためにも、自分から本を手にして読む習慣をぜひとも身に付けてほしいと願っています。貸し出し再開は、ちょうどよいきっかけでもありますので、本を読む時間や機会を増やして読書が習慣化していくよう、働きかけていきたいと思います。				
8	子どもが自分や友だちのことなどについて話すことができます。	41.6	47.7	9.6	1.1						
9	子どもが早寝早起きをることができます。	30.3	31.5	25.8	5.4						
10	子どもが朝食を食べることができます。	79.9	16.9	2.3	0.9						
11	子どもが読書することができます。	36.8	29.5	27.6	6.1						
12	子どもが交通ルールを守ることができます。	51.2	46.4	2.2	0.2						

【3月10日の学校運営協議会の際に、学校評価の結果について報告をしました】

親子読書は、良い機会をいただいた。今まで同じ本を読み、親子で本をきっかけにした議論をすることなどなかった。今後は、親子で読んだ本をもとに話す時間をとっていく。また、図書館の閉館が続いたため、子どもたちの本を借りるという習慣が途絶えてしまっているように感じる。これから、どんどん図書館に足を運び、読書読む習慣がついていくことを願う。

子どもにかかるのは、今のうち。学校評価アンケートに答えることが、親として子どもに対してできることを考える機会となればよい。運動に関わる評価もあればよいのではないか。項目の内容や問い合わせについて検討してみて欲しい。

学校評価結果について、児童と教職員はGIGA端末を使って、保護者の方には事前にQRコードとURLをお知らせし家庭の端末を使って回答していただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

では、結果を見ていきます。児童と教員は、前期、後期ともほぼ横ばいで大きな変化がありませんでした。ほほどの項目も肯定的な評価が高く、16項目中10項目が90%を超す結果でした。その中で②の「司会をして学習ができる」の項目が児童・教員共に約75%と他に比べて低い値を示しています。話し合い活動は、積極的に取り入れていますが、全体で司会を立てて話し合いを進めることに不慣れであることがこの結果の一因として考えられます。子どもたちの司会力や話し合うスキルを身に付けるということは、自分たちで話し合いを進め、思考を深めたり考えを練り上げたりして結論を導き出す力をつけるために必要なことだと考えます。また、教師が子どもたちの考えを上手に引き出し、思考を深めることができるように問掛けをタイミングよくしていくことや、子どもたちのやり取りを聞きながら必要に応じて支援していくことができるよう力を付けてくとも必要です。児童も教員も自信をもって目指す授業を実現できるように今後も力を入れて取り組んでいきます。

大きく結果が変わったのが、保護者の評価結果です。全項目において前期に比べ肯定的な評価が上昇しました。特に前期値の低かった、4項目（①④⑤⑪）のうち、3項目において、大きく上昇が見られました。（それぞれ①13.4↑④13.8↑⑤8.9%↑）

④「論理的に考え、それを表現する力をつけること」、児童の結果は91.9%、教員の結果は93%でどちらも高い値が出ています。この項目の保護者評価は前期と比較すると13.8%上昇しました。この「論理的に考え、それを表現する力をつけること」は、本校が根幹に据えている子どもたちにつけたい資質能力の一つであり、その育成を目指して授業研究を行い、取組を進めてきました。そのことについて保護者の方から高評価をいただいたことは、今年度教職員が取り組んできたことへの評価として、大変うれしいことで、自信にもつながります。これを励みにしてより一層頑張っていきたいと思います。

また、⑪の「子どもの読書すること」についての項目についての取組として、前期のアンケート後、今年度初めて親子読書を実施しました。

学年で本を選定し、各家庭に持ち帰って親子で一緒に本を読み感想を伝え合うという初めての取組でした。保護者の方々にも積極的にご協力いただいたよう、「また、やってみたい。」というお声をたくさんいただきました。また、図書館コミュニケーションの上岡さんによるお話を会も、今年度も、各学年3回ずつ実施していました。目を輝かせてお話を世界にどっぷり浸って物語を楽しんでいる子どもたちの様子を見ていますと、本への興味・関心が高いために感じます。コロナ禍の中、中止していた本の貸し出しを3学期より再開しました。子どもたちに豊かな想像力を育むためにも、自分から本を手にして読む習慣をぜひとも身に付けてほしいと願っています。貸し出し再開は、ちょうどよいきっかけでもありますので、本を読む時間や機会を増やして読書が習慣化していくよう、働きかけていきたいと思います。